# 平成26年度　一般入試問題

# 国　語

（解答時間　　50分）

（配　　点　　100点）

［注　意　事　項］

1. 問題用紙は開始の合図があるまで開かないこと。
2. 開始の合図と同時に、問題用紙と解答用紙を切り離すこと。
3. 解答用紙に受験番号（算用数字）と氏名を記入すること。
4. 問題は㊀～㊁です。最初に確認すること。
5. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
6. 筆答試験終了とともに、解答用紙をふせ、監督者の指示に従うこと。
7. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（Ⅰ）巣の密度

鳥が巣に帰るようにだれもが毎日、「家」を出て「家」に帰る。巣は、雌にとっては抱卵と養育の場所であり、雛にとってはひきこもる場所、身をひそめ、隠れ、しどけなくくつろげる場所であり、さらにいいかえれば、怯えずに無警戒でいられる空間、つまりは避難所である。

〈家族〉という集住の形態は、それを一括りにして論じることがためらわれるくらいに多様な形態があったにせよ、人類の歴史のなかではきわめて［A］な事象であると、たぶん考えてよいだろう。そしてその集合の多くは、係累、さらには使用人なども含んだ集団性の高いものであった。これに対して都市化が高度化した現代では、核家族というミニマムの家族形態が標準的になってきている。このように、「家」という内部空間が社会の網目の一つとして整形されているからには、家族の内密性もまた「社会」というものからの深い侵蝕を受けている。「わたしの家族」も、時代と社会のなかで編制されたものなのだ。そのことを建築家の山本理顕は、もう少しきびしい口調でこう書いている――

〔家族という〕この小さな単位にあらゆる（a）フタンがかかるように、今の社会のシステムはできているように思う。今の社会のシステムというのは、家族という最小単位が自明であるという前提ででき上がっている。そして、この最小単位にあらゆるフタンがかかるように、つまり、社会の側のシステムを補強するように、さらに言えばもしシステムに不備があったとしたら、この不備をこの最小単位のところで調整するようにできている。――「細胞都市」

（ア）その最小単位じたいが、いま密度を下げている。独特の密度を可能にする閉じた関係を内蔵しにくくなっている。塗り固められた燕の巣のように、内部を密封する鉄の扉によって、かろうじてイメージとして維持されているだけの内部を外部からがちっと遮断しているだけだとしか言いえないような家族も増えている。この防波堤が外されれば、イメージとしてかろうじて維持されている家族の形態もすぐにでもばらけてしまいそうなくらいに。

（Ⅱ）〈家族〉の（イ）両義性

（ウ）家族を問題として設定するのはなかなかにむずかしい。それは一義的な組織、透明な場所ではないからだ。いいかえると、家族はさまざまな矛盾が凝集する場所であり、さまざまな対立項で構成されている場所であり、呪いと憧れとが錯綜する場所であるからだ。

まず、家族は〈自然〉と〈制度〉の接点であり、交点である。それは、いのちの生産と再生産、［①］生殖と食と保育をコアとする、まさに人間の自然に深く根づいた関係である。ここで家族の成員はその身体空間をたがいに深く交わらせる。が、それと同時に家族は、「家」の意識や養子縁組にみられるように、社会という擬制的な制度が紡ぎだされるその原点ともなるものだ。

家族はまた、外部の権力から身内を護る防壁であると同時に、それじたいが権力の雛形である。権力の雛形であるというのは、一家の主とその被扶養者という権力関係（命令と服従の関係）を生みだす社会の最小単位であるということである。別の言い方をすると、家族は、民を管理する国家組織の最小単位（社会への登録の最小単位）であると同時に、そうした権力への民の抵抗の拠点ともなりうる場所である。

（エ）第三に、家族は、深い信頼感で結ばれた親密な「われわれ」（一、二人称の関係）が維持される場所であると同時に、競合する他者との関係（三人称の関係）が発生する最初の場所でもある。じっさい、家族は身を寄せあう内密な場所であるのみならず、「兄弟は他人のはじまり」といわれるように、たがいに他者であるということが至近距離で思い知らされる場でもある。

最後に、ケアという視点からみれば、見返りを求めることなくたがいの世話をしあうという家族成員の関係は、一方が他方の世話をしながら見返りはもとめないという点で、互酬性のない関係である。それは献身の関係であるといえるが、それを裏返せば一方が他方をひたすら搾取する関係であるともいえる。つまり家族は、果てしない競合とその（b）チョウテイの手段としての［B］でもって成り立つわたしたちの社会において、そこからの避難所として機能するが、一つまちがえば、高齢者

介護の悲惨さにしばしば見られるように、徹底した搾取の場所ともなりかねないものだ。家族のためには労を惜しまない、犠牲になることも厭わない、ひたすら尽くす、どんな事態になってもつねに味方でいる……というような関係が、たしかに〈家族〉という信頼の環をかたちづくってはいる。けれどもそれが(オ)搾取の環に裏返る可能性をつねにもっているということを頭に入れておくことも必要だ。

このように家族は、人間関係の対立する二つの契機が和解不能なかたちで交差し、共存している、矛盾に満ちた場所としてある。

(Ⅲ)共存における約束

性交、受精、出産、保育といった生きものとしてもっとも基本的ないとなみをなす、家族というこの持続的な装置は、人類史のなかでもきわめて多様な形態を採ってきた。近代という時代は、家事というかたちで家族のメンバー(とくに女性)に負わされてきた家族の機能を、家庭外のサーヴィス機関に(c)イタクする傾向を推しすすめた。調理、排泄物処理、洗濯から医療、保育、冠婚葬祭、看病、介護まで、メンバーの生命機能にじかにかかわる世話を、金銭をもって外部の専門職に委ねるようになった。これによって家族は、(家庭)という、文字どおり身体空間をたがいに深く交わらせるような、私的な愛情と親密さの場所に変わったのである。が、そういう観念によって支えられる家族というものが、いかに脆いもの、壊れやすいものであるかは、戦後社会を生きてきたわたしたちにとっては、身に沁みた痛い事実である。じっさい、家族が「愛」を絆に結ばれていると信じている夫婦はいないし、子どもだってそんなことは信じていない。なぜおなじ屋根の下にいるのか、なぜここにいつも帰って来なければならないのか、要は、わたしがここにいる理由、ここにいなければならない理由、それが不明なままである。それをわざわざ口にしないだけのことだ。

いうまでもなく、子どもは生まれてすぐに親を中心とする家族のなかで育つ。このなかで、食べること、排泄すること、眠ることをはじめ、生きものとして生きることの基本を身につけるだけでなく、(カ)他人との話し方、つきあい方、そこでの身ぶり、身ごなしなどの基本も身につけてゆく。が、その過程でかならず対立が起こる。何に関しても抑制ということが求められるからだ。食べたいときに食べられない、好き(d)ホウダイにやれない……。他者の望んでいることとの調整が図られるからだ。そこで子どもはむずかる。むずかれば窘められる。叱られる。そして泣く泣く辛抱する……。

母と子のあいだのみならず、介護者と被介護者、子どもの集団のような、閉じられた場所で異なる人間がむきだしで接するとき、そこにはかならずといっていいほど確執や悲劇が起こる。[②]そういう閉じられた場所では、むきだしでない関係、つまり人間関係のクッションといったものが必要になる。家族のなかで、相手を思いやる気持ちとか、礼儀やマナーやルールといったつきあいの作法とかが仕込まれるのも、そういう理由からである。ひとは生まれ落ちてしばらくして、こうした共存の習慣の基礎となるものをしつけられる。

が、そうした「しつけ」の基礎には、まずは家族への信頼と安心というものに浸れていることが前提となる。「[C]」という仕方で、たっぷりと世話を受けた、ことあるごとにじぶんのことをかまってくれたという感覚がなければ、ひとは他者の命令に従おうとしない。信頼と安心の基礎、それが築かれるのは、じぶんがどういう存在であろうとじぶんがここにいるということだけで大事にされた、無条件に肯定されたという経験があってのことである。まわりの人間にことごとくこまやかに応対してもらった、手厚く世話してもらったという体験が、「しつけ」などの前提となる他者への信頼感を根づかせる。そして「存在の世話」とでもいうべきそのような経験が、自尊心の基礎となるものを育む。ここで自尊心とは、プライド(自負心)のことではなく、じぶんを(e)ソマツにしない心、かけがえのない自己というものの経験のことである。これがあってはじめて、ひとは他者の思いへの濃やかな想像力を抱きうるようになる。

「社会的動物」としての人間は、(キ)このように、その原型となるものをまずは家族のなかで経験する。[③]やがてとくに親密ではない人びととの関係のなかに出てゆく。いくつかの壁を超えながら。

(鷲田清一『ひとの現象学』)

問一　傍線部(a)～(e)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二　空欄部①・②・③に入る最も適当な語句を、次の1～5の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。(同じ数字の使用は不可)

1　そして　　2　しかし　　3　つまり　　4　だから　　5　むしろ

問三　空欄部A・B・Cに入る最も適当な語句を、次の1～5の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

A　(1　個別的　2　観念的　3　平凡的　4　普遍的　5　歴史的)

B　(1　契約　2　倹約　3　密約　4　約数　5　黙約)

C　(1　窮すれば通じる　2　斜に構える　3　顔色をうかがう　4　堂に入る　5　手塩にかける)

問四　傍線部(ア)「その最小単位じたいが、いま密度を下げている」とは、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　本来、社会の最小単位として、最も仲良く関係をもっていた家族の血縁関係が壊れ、殺伐(さつばつ)としたものになってきたということ。

2　本来、社会システムの根本である家族がばらばらになり、社会の根本単位としての役割を果たせなくなっているということ。

3　本来、時代や社会とは関係なくくつろげる場所であった家族が、時代や社会の動きに翻弄(ほんろう)されるようになってきたということ。

4　本来、避難所であるべき家族が、社会からの深い侵蝕を受けて、無警戒にくつろげる空間ではなくなってきているということ。

5　本来、抱卵と養育の場所であった家族が、その機能を失ったが、社会システムを維持する場所にはなっているということ。

問五　傍線部(イ)「両義性」の語句の意味を次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　一人が論じると相手が反論し議論がまとまらないこと。

2　内容がはっきりしないであやふやなこと。

3　一つのことで同時に二つの利益を得ること。

4　すぐれたものとつまらないものとが混じり合っていること。

5　一つのことばあるいは概念が二重の意味をもつということ。

問六　傍線部(ウ)「家族を問題として設定するのはなかなかにむずかしい」のはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　家族は、人間関係の対立が和解不能な形で交差し、共存し、矛盾が凝集した場所であるから。

2　家族は、人間関係の矛盾が和解不能な状態で露呈し、対立が解消できない場所だから。

3　家族は、人間関係の対立の難しさが露呈し、同時に社会の矛盾が屈接した形で反映される場所だから。

4　家族は、信頼しあう互酬性のないものでもあり、歴史的なものでもあるから。

5　家族は、呪いと憧れとが錯綜する場所であり、人間関係が親和的な関係を結べる場所でもあるから。

問七　傍線部(エ)「第二に」とあるが、それ以前に述べられている第一・第二の内容とは何か。次の1～8の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1　家族は、見返りを求めることなく、お互いに献身的に世話をしあえる場所である。
2　家族は、人間の自然に根付き、社会というシステムの原点ともなるものである。
3　家族は、閉じられた場所としてむきだしの人間関係が表れる場所である。
4　家族は、身を潜め、隠れ、しどけなくくつろげる無警戒でいられる避難所である。
5　家族は、自尊心の基礎なるべきものを育む親密な場所である。
6　家族は、社会や世界という外部から身内を護ると同時に、命令と服従の関係を生み出す場所でもある。
7　家族は、時代と社会の中で編制され、現在の社会システムの最小の単位でもある。
8　家族は、国家組織の最小単位であると同時に、受精・出産・保育といった生き物の営みの場所でもある。

問八　傍線部(オ)「搾取の環に裏返る可能性」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　家族は、献身の関係を軸とするが、それは裏返せば、どのような犠牲をはらっても献身し続けなければならないという、有無を言わせない義務を強いてくる可能性をも持っているということ。
2　家族は、互酬性のない関係ではあるが、それは裏返せば、お互いに見返りを求めないわけだから、お互いに世話を拒否することも、可能性としてはあるということ。
3　家族は、殺伐とした現代社会では避難所として機能するが、それは裏返せば、社会とは縁を切って家族内の一家の主と被扶養者という権力関係を維持する可能性があるということ。
4　家族は、様々な矛盾が凝集する場所ではあるが、矛盾を自覚しないと、親の面倒を子どもが見るのが当然であるかのように決めつけられてしまう場所ともなる可能性をもっているということ。
5　家族は、親と子という人間関係の対立する契機が存在する場所ではあるが、それは裏返せば、親と子どもとの信頼関係が築かれる場所でもあるという可能性をもつということ。

問九　傍線部(カ)「他人との話し方、つきあい方、そこでの身ぶり、身ごなしなどの基本」と同じことを、八文字で言い換えた言葉を本文中より抜き出しなさい。

問十　傍線部(キ)「このように」とはどのようなことか。その内容として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　人は、家族の中で共存の習慣の基礎とも言うべきものをしつけられるが、そこには他者への信頼を根づかせる存在の世話とでもいうような経験があり、自分を疎(おろそ)かにしない心を育てるということ。
2　人は、家族関係の中で礼儀とかマナーとかをしつけられ、他者の命令に素直に従う経験を学び、自尊心を傷つけられない心を育てていくということ。
3　人は、家族を通して、社会的に必要な相手を思いやる心や礼儀やマナーを習得し、自分を大切にすると同時に、他者から信頼される人間になるような心を育てていくということ。
4　人は、家族や社会を通して、人として生きる上で身につけなければいけない、最低限の礼儀やマナーを学び、自分を大切に、プライドを持って生きる力強さを育成するということ。
5　人は、家族の中で、様々な確執を通してお互いの良さを認め合うことで、相手を思いやる心を学び、同時に社会に出てからは他者への濃やかな想像力を抱くようになるということ。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※グローバル化の風が吹く中で、日本の教育、日本人の「学び」は、どのように変わっていかなければならないのだろうか。

日本の教育システムを考える上で、どのような言語を用いるかという政策決定（「言語政策」）は死活的に重要だといえるだろう。とりわけ、科学や技術、インターネットの言葉として重要であり、いわば現代の世界の「リングァ・フランカ」（共通言語）となっている英語についての政策の切り替えは、緊急度の高い課題となっている。日本の教育システムの、根本的な組み替えが必要とされている。※「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」誌のランキングという「黒船」は、（ア）そんな時代の流れの一つの象徴であろう。

日本人の英語の受容が、明治期における「翻訳」から始まったことには、歴史的な必然性があった。夏目漱石の『三四郎』にも活写されている通り、外国人による英語の講義が、日本人による日本語の講義へと移行したことは、日本の大学の堕落ではなく、むしろ日本の学問の成熟であった。学問を「日本語化」して輸入し、大学を「文明の配電盤」として機能させることによってしか、日本の近代化は成し遂げられなかったのだ。

明治維新は、近代国家としての「日本」を作り上げる「国家構築」（nation building）の偉大な実験であった。それは一つの賭けであったが、先人たちはその賭けに勝利を収めた。「坂の上の雲」を目指して駆け上がっていった時代のことである。

国家構築のいわば「インフラ」として機能した学問の「日本語化」の結果、外国からの「輸入」の緊急性、必要性は次第に小さくなっていった。今日の日本においては、近代国家を運営していくための技術、概念はすでに日本語の中だけで回せるようになっている。英語をはじめとする外国語に真摯（しんし）な関心を抱かなくても、日常生活に支障がない。このようなマクロな状況の変化が、最近の外国語学習欲、海外留学意欲の低下の背景にあるのだろう。

今日、大多数の日本人にとっての英語習得が、海外旅行の際にでも使えればという「趣味」の視点や、ＴＯＥＩＣに代表される「実用英語」という視点にほぼ集約されている点に、もはや英語圏の文化の「輸入」が国家的課題ではなくなったという時代の変化が象徴されている。ビジネス・レターの書き方や、会議でのプレゼンテーション法といったテーマは、［Ⅰ］ではあるが、明治の日本人が直面していた国家構築上の課題に比べれば、軽微な課題であるとも言える。そのような軽微な課題を通してしか、日本人が英語習得にリアリティを感じ得なくなっているという点に、現代に固有の問題があると言ってよいだろう。何しろ、法体系や、科学・技術、哲学上の概念を巡る、日本が「不平等条約」を脱するために必要だった国家構築はすでに終わってしまっているのだ。

「輸入学問」の手段としての、外国語習得の必要性は減じた。その一方で、日本人が発信者となり、グローバルなネットワークの一つのハブとして外国語を駆使する必要性は増している。

受信者から発信者へ。

［Ⅱ］観点からの「輸入超過」から「貿易均衡」へ――。

そのような視点から日本の英語教育の現状を評価すると、そこにミスマッチがあると断ぜざるを得ない。

日本の大学の入試問題において出題される「和文英訳」や「英文和訳」は、「翻訳」することが重要な［Ⅲ］課題だった頃の遺物である。このような形式の英語学習、試験は、大学のとりわけ「文系」の研究者たちによる、「輸入業者」としての自分たちがやってきたことの「自画像」のようなもの。しかも、あまり出来がよくない。

（イ）時代は変わった。もはや、輸入しているだけでは、国際的な文脈においてはもちろん、国内的な意味でも大学はその使命を果たせない。英語を通して、「広めるに値するアイデア "ideas worth spreading"」（毎年カリフォルニア州ロングビーチで開かれる、国際的な会議ＴＥＤ［Technology Entertainment Design］のスローガン）を直接やりとりする時代となった。日本人が、英語を使って、自分たちの考えていること、感じていることを世界に向けて発信する必要性が増大している。

発信は、単に、英語のネイティヴ話者にだけ向けたことではない。英語を第二言語として使用している世界各地の人たちにも、自分たちの思想や考えを届けなくてはならない。そうでなければ、世界規模の影響力のネットワークを構築できない。ネットワークのハブとならなければ、今日の大学にどんな存在意義があるというのだろう。「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」誌のランキングは、そのあたりを評価する。和文英訳や英文和訳に依拠（いきょ）した入試はやめた方がいいだろう。なんと田舎くさい、時代遅れの意識がそこにあることか。センター試験や、日本の［Ⅳ］な「文系脳」で作った入試問題を全廃し、国

際的な英語の試験、たとえばＴＯＥＦＬなどで代替するくらいの思い切った改革が必要である。

英語の習得については、何歳で教育を始めることが望ましいのかという点を巡って、不毛な議論が繰り返されてきた。できるだけ早く始めるべきだという意見がある。英語習得の「臨界期」を重視する立場である。「ネイティヴ」のような発音でしゃべることができるためには、中学生で始めるのでは遅すぎるという議論である。一方では、母語（日本語）を大切にするべきだという議論もある。きちんと日本語を身につけてから、英語をやるべきだという主張も根強い。

しかし、幼い時に始めなければ外国語習得が難しいという主張を裏付ける確たる証拠はない。実際、映画『地獄の黙示録』の原作となった『闇の奥』を書いたポーランド生まれのジョゼフ・コンラッドは英語で数々の小説を書いたが、英語という言語に初めて接したのは、二十歳を過ぎてからのことだった。それでも、英文学史に燦然と輝く「大家」となることができた。「臨界期」を過ぎても、第二言語の高度な運用能力を獲得できることを示す一つの実例である。

一方で、早い時期から第二言語に接することが、母語の健全な習得を妨げるという証拠もない。実際、数百の言語が並立するインドでは、複数の言語が入り交じり、それらをある程度用いなければ日常生活が成り立たない地域が存在する。だからといって、これらの地域で育つ子どもが特段の悪影響を受けるというわけではない。

単独、ないしは複数の言語習得について、人間の脳は驚くほど柔軟に適応する能力を持っており、早期に英語を始めないと絶対に習得できないということもないし、あるいは、第二言語の獲得が第一言語の発達に致命的な悪影響を及ぼすという事実もない。すなわち、言語政策は、実際の必要に応じて柔軟に形成してよい。

もちろん、母語の充実は必要である。英語公用語化論や、ローマ字表記など、過去に議論された「国語改革」はナンセンスである。歴史や文化には継続性があり、守るべきものがある。日本語でしか表現できないことや、繊細に積み重ねられたニュアンスの地層を捨ててしまうことは、おろかなことだとしか言いようがない。

（茂木健一郎『新しい日本の愛し方』）

（注）

※「グローバル化」…　世界が同じような質の文化で統一されていくこと。

※「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」…　英国の教育専門誌。世界大学ランキングを掲載している。

問一　空欄部Ⅰ～Ⅳに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～6の中から一つ選びなさい。

1　Ⅰ　現実的　Ⅱ　伝統的　Ⅲ　国家的　Ⅳ　文化的
2　Ⅰ　現実的　Ⅱ　文化的　Ⅲ　歴史的　Ⅳ　伝統的
3　Ⅰ　発展的　Ⅱ　外交的　Ⅲ　伝統的　Ⅳ　歴史的
4　Ⅰ　発展的　Ⅱ　伝統的　Ⅲ　歴史的　Ⅳ　文化的
5　Ⅰ　実際的　Ⅱ　文化的　Ⅲ　国家的　Ⅳ　伝統的
6　Ⅰ　実際的　Ⅱ　外交的　Ⅲ　伝統的　Ⅳ　歴史的

問二　傍線部（ア）「そんな時代の流れ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　世界の国々で英語を共通言語とすることが互いの情報交換をおこなうための便利なツールとなり、その結果、英語を使えない国は諸外国から相手にされなくなったということ。
2　世界各国に英語という言語が認められたことで自国の文化や伝統を表現することが難しくなり、英語の能力を早急に身につけることを求められるようになったということ。
3　それぞれの地域が英語圏の文化によって一つの均質化した世界に染められていく中で、英語を共通言語として自分たちの思考や考えを世界に伝える力が必要になってきたということ。
4　それぞれの国がアメリカを中心に動き始め、「英語」を身につけることがグローバル化する世の中を生きていくための必須条件となり、英語習得の全てを学校教育に委ねるしかなくなったということ。
5　様々な国の文化が均質化されると、自然に「英語」という言語が各国の母国語に変わるものとなり、自国の文化をいかにわかり易く表現できるかが重要となってきたということ。

問三　傍線部(イ)「時代は変わった。」とあるが、筆者はどのように「変わった」と述べていますか。「文化」と「発信」の二語を用いて、四十五字以内で説明しなさい。ただし、解答の際、使用した語句には傍線をつけること。（例・発信する）

問四　筆者は「英語の習得」はどうあることが望ましいと述べていますか。三十字以内でまとめなさい。

## 三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かかるほどに、この子五つになる年、秋つ方、嫗死ぬ。この親子、いささかもの食ふこともなくなりぬ。日を経てつれづれとあり。この子、出で入り遊び歩きて見るに、母のものも食はであるを見て、いみじう悲しと見て、いかで、（ア）これを養はむ、と思ふ心つきて思へど、さる幼きほどなれば、なでふわざをもえせず。つとめて、近き河原に出でて遊び歩けば、釣りする者、魚を釣る。「何にせむとするぞ」といふに、「親のわづらひてものも食はねば、たばむとするぞ」といふに、さは、親には（イ）これを食はするぞ、と知りて、針を構へて釣るに、いとをかしげなる子の、大いなる河面に出でてすれば、かくらうたげなる子を、かく出だし歩かする、たれならむ、と思ひて、「何せむに、かくはするぞ」といへば、「遊びにせむずる」といふ。らうたがりて、「われ、釣りてとらせむ」とて、多く釣りてとらする人もあるを、持て来て、親に食はせなどし歩くを、「かく、なせそ。［X］」といへど、聞かず。容貌は、日々に光るやうになりゆく。見る人、抱きうつくしみて、「親はありや。いざ、わが子に」といへば、「いな、おもとおはす」とてさらに聞かず。日の暖かなるほどは、かくし歩きて母に食はす。夢ばかりにても、ただ子の食はするものにかかりてあり。

冬の寒くなるままには、さもえすまじければ、この子、わが親に、何をまゐらむ。いかにせむ、と思ひて、母にいふやう、「魚を取りに行きたれど、氷いと固くて魚もなし。おもと、いかがしたまはむずるぞ」といひて泣くときに、親、「（ウ）何か悲しき。な泣きそ。氷解けなむときに取れかし。われもの多く食ひつ」といへど、なほ明くれば、河原に行きて、人多く車などあるときは、そのほど過ぐして出でて見るに、氷鏡のごとく凍れり。そのかみ、この子いふ、「まことにわれ孝の子ならば、氷解けて魚出て来。孝の子ならずは、な出で来そ」とて泣くときに、氷解けて、大いなる魚出で来たり。取りて行きて母にいふやう、「われはまことの［Y］なりけり」と語る。小さき子の、深き雪を分けて、足は海老のやうにて走り来るを見るに、いと悲しくて、涙を流して、「など、かく寒きに出でては歩くぞ。かからざらむ折、出でて歩け」と泣けば、「苦しうもあらず。おもとを思ふ」とて、とどまるべくもあらず。ありつる魚は、魚と見つれど、百味を備へたる飲食になりぬ。あやしう妙なること多かり。

（『宇津保物語』）

問一　傍線部(ア)(イ)「これ」の指示する内容として最も適当なものを、それぞれ次の1～5の中から一つずつ選びなさい。

1　子　　2　母　　3　釣りする者　　4　多く釣りてとらする人　　5　魚

問二　空欄部Xに入るものとして最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　もの食ふは辛くもあらず
2　魚盗むは罪深きことなり
3　さあらむ所にひとり往ぬべきにあらず
4　もの食はぬも苦しうもあらず
5　魚とること罪業は報ふこと疑ひなし

問三　傍線部(ウ)「何か悲しき。な泣きそ。」の現代語訳として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　何も悲しいことはありません。こんなに泣く理由など少しもないでしょう。
2　何とも悲しいことがありましたね。でも泣くことはありませんよ。
3　何と悲しいことでしょう。泣くことも仕方のないことでしょうね。
4　何が悲しいことがありましょう。泣いてはいけませんよ。
5　何か悲しいことがありますか。どうぞ思い切りお泣きなさいな。

問四　空欄部Yに入る最も適当な語句を本文中より選び三文字で答えなさい。

問五　本文の内容と**合致しない**ものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　子がおばあさんの死んだ後、何も食べ物を食べない母のことが心配で、早朝河原に出て魚をもらい歩いた。
2　子は釣りする者が病気の親のために魚釣りをしていることを聞いて、自分も同じことをすればよいと考えた。
3　子は母が何も食べ物を食べなくなったのを見て、自分が何とかしなければならないと思うようになった。
4　子は母のために魚を取り続けてきたが、その外見は日を追うごとに光かがやくように美しくなっていった。
5　子が深い雪の中を魚取りに出かけるのを見て、母は悲しくて涙を流して家にとどめようとしたが、子は聞かなかった。

問六　本文の出典は平安時代に成立した伝奇的物語『宇津保物語』である。同じ時代に成立した伝奇的物語を次の1～5の中から一つ選びなさい。

1　宇治拾遺物語　　2　竹取物語　　3　伊勢物語　　4　大和物語　　5　平家物語

# 平成二十六年度　一般入試　国語　解答用紙

受験番号

氏　名

得　点

## 一

問一

(a) フタン

(b) チョウテイ

(c) イタク

(d) ホウダイ

(e) ソマツ

問二

① ② ③

問三

A B C

問四

問五

問六

## 二

問七

第一 第二

問八

問九

問十

## 三

問一

(ア) (イ)

問二

問三

問四

問五

問六

# 平成26年度　一般入試問題

# 数　学

（解答時間　　50分）

（配　　点　　100点）

［注　意　事　項］

1. 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 開始の合図と同時に、問題用紙と解答用紙を切り離すこと。
3. 解答用紙に受験番号（算用数字）と氏名を記入すること。
4. 問題は$\boxed{1}$～$\boxed{6}$です。最初に確認すること。
5. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
6. 筆答試験終了とともに、解答用紙をふせ、監督者の指示に従うこと。
7. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

**1** 次の式を簡単にしなさい。

計算用紙

(1) $\left\{\left(-\frac{2}{5}\right)^3-1.2^3\right\}\div\frac{8}{25}-(1.2^2-0.2^2)$

(2) $\left(\frac{3}{4}xy^3\right)^3\times(-4x^2y)^3\div(-3x^4y^6)^2$

(3) $\left(\frac{1}{2\sqrt{3}}-\frac{\sqrt{3}}{2}\right)\left(\sqrt{6}-\frac{2}{\sqrt{2}}\right)+\sqrt{2}$

(4) $x-3y-\frac{3(x-2y)}{2}+\frac{x+2y}{3}$

**2** 次の問いに答えなさい。

(1) $(a-b)^2-a+b$ を因数分解しなさい。

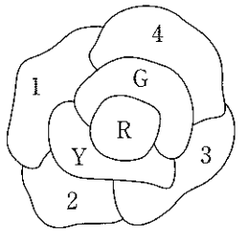
(2) $x$ についての方程式 $x^2-ax+b=0$, $x^2+b^2x-a=0$ がある。
この2つの方程式の共通の解が $x=1$ であるとき，$a$, $b$ の値をすべて求めなさい。

(3) $\sqrt{180-5n}$ が整数となるような自然数 $n$ をすべて求めなさい。

**3** 2つの容器A，Bに十分な量の食塩水が入っている。Aから500g，Bから400gの食塩水を取り出して空の容器に入れ，さらに水を100g加えてよくかき混ぜると7.5%の食塩水ができる。また，Aから150g，Bから300gの食塩水を取り出して空の容器に入れ，さらに食塩を5g加えてよくかき混ぜると10%の食塩水ができる。このとき，A，Bの食塩水の濃度をそれぞれ求めなさい。

計算用紙

**4** 赤(R)，緑(G)，黄(Y)が塗られている右図において，残りの1～4の4ヶ所に色を塗るとき，次の問いに答えなさい。ただし，隣り合う部分は同じ色で塗らないものとする。




(1) R，G，Yの3色で塗る方法は何通りあるか求めなさい。

(2) R，G，Yに黒(B)を加えた4色を用いて塗る方法は何通りあるか求めなさい。ただし，少なくとも1ヶ所は黒(B)で塗るものとする。

**5** 点A(−3，3)を通る放物線 $y=ax^2$……① において，次の問いに答えなさい。

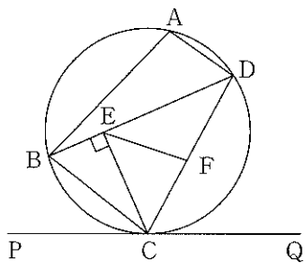
(1) $a$ の値を求めなさい。

(2) ①上に点Bをとる。直線ABが点C(0，6)を通るとき，点Bの座標を求めなさい。

(3) 点Aと $y$ 軸に関して対称な点をA′とするとき，直線OBと直線A′Cとの交点Dの座標を求めなさい。ただし、点Oは原点である。

(4) △OABを $y$ 軸に関して1回転させてできる立体の体積を求めなさい。ただし，円周率は $\pi$ とする。

**6** 図のような，円に内接する四角形ABCDがあり，直線PQは点Cにおいてこの円と接している。また，点Cから線分BDへ引いた垂線と線分BDとの交点をE，線分CDの中点をFとする。
∠PCB＝35°，∠BAD＝95° であるとき，次の問いに答えなさい。




(1) ∠CBDの大きさを求めなさい。

(2) ∠CEFの大きさを求めなさい。

# 平成26年度　一般入試

# 数学　解答用紙

〈注〉※欄には記入しないこと。

**1**

| (1) | (2) | (3) | (4) |
|---|---|---|---|
| | | | |

**2**

| (1) | (2) | (3) |
|---|---|---|
| | $(a,\ b)\ =$ | $n\ =$ |

※小計A

**3**

A：　　%，B：　　%

**4**

| (1) | (2) |
|---|---|
| 通り | 通り |

※小計B

**5**

| (1) | (2) | (3) | (4) |
|---|---|---|---|
| $a\ =$ | B（　　，　　） | D（　　，　　） | |

**6**

| (1) | (2) |
|---|---|
| ° | ° |

※小計C

※合計

| 受験番号 | 氏　　名 |
|---|---|
| | |

# 平成26年度　一般入試問題

# 英　語

（解答時間　　50分）

（配　　点　　100点）

［注　意　事　項］

1. 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 開始の合図と同時に、問題用紙と解答用紙を切り離すこと。
3. 解答用紙に受験番号（算用数字）と氏名を記入すること。
4. 問題は1～5です。最初に確認すること。
5. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
6. 筆答試験終了とともに、解答用紙をふせ、監督者の指示に従うこと。
7. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

**1** 次の設問(問１・２)に答えなさい。

問１ 下線部の発音が他と異なるものを、それぞれ(ア)～(エ)から１つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. (ア) east　(イ) reason　(ウ) evening　(エ) great

2. (ア) map　(イ) began　(ウ) watch　(エ) calendar

3. (ア) open　(イ) most　(ウ) over　(エ) follow

問２ 単語のアクセント(強勢)の位置が第２音節にあるものを、(ア)～(ケ)から３つ選び、記号で答えなさい。

(ア) tra-di-tion　(イ) ham-burg-er　(ウ) pho-to-graph

(エ) un-der-stand　(オ) um-brel-la　(カ) dis-ap-pear

(キ) sci-en-tist　(ク) en-gi-neer　(ケ) de-li-cious

**2** 次の英文の(　　)に当てはまるものを(ア)～(エ)から１つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. A：She is an exchange student from Australia.
   B：I know her. I've learned many things about Australia by (　　) with her.
   (ア) talk　(イ) talked　(ウ) talking　(エ) to talk

2. A：How (　　) will the concert begin?
   B：In twenty minutes.
   (ア) long　(イ) much　(ウ) often　(エ) soon

3. A：Why did you go to the hospital?
   B：My brother (　　) there since last week because of his injury.
   (ア) has been　(イ) was
   (ウ) was going to be　(エ) will be

4. A：(　　) we eat out together?
   B：Yes, let's.
   (ア) Had better　(イ) Have　(ウ) Shall　(エ) Will

5. A：Wait here until I (　　) you.
   B：OK.
   (ア) am calling　(イ) call　(ウ) called　(エ) will call

6. A : I know (　　) he is an honest man.

B : I believe so.

(ア) after　(イ) because　(ウ) that　(エ) when

7. A : Was somebody at home?

B : Yes.　My sister (　　) TV when I came home.

(ア) has watched　(イ) was watching

(ウ) watched　(エ) watches

8. A : I don't like this shirt.　Could you show me (　　)?

B : How about this one?

(ア) another　(イ) it　(ウ) other　(エ) them

9. A : Takeshi likes reading very much.

B : Yes, I think so.　In fact, he has three times (　　) as I do.

(ア) as many books　(イ) as books many

(ウ) books as many　(エ) many as books

10. A : Please give me 300 dollars, Dad.

B : What do you want the money (　　)?

A : I want to buy a new dictionary.

(ア) over　(イ) for　(ウ) into　(エ) to

**3**　次の英文の(　　)内の語(句)を並べかえて、意味の通る英文を完成しなさい。

1. A : When will she come?

B : We ( come / don't / know / she / time / what / will ).

2. A : Look at the tall man.　Who is he?

B : He is a ( basketball / known / many / player / people / to ) in this town.

3. A : Why don't we go to the library ( books / during / look for / read / to / to ) summer vacation?

B : That sounds good.　I'll go with you.

4. A : The ( are / look / shoes / wearing / you ) expensive.

B : No, I bought them on sale.

**4** 次の設問(A～C)に答えなさい。

A 次の文の空所①～④に入るものを(ア)～(エ)から1つずつ選び、記号で答えなさい。＊印は注があることを表します。

[ ① ] This is what happens on the beaches in ＊the Caribbean, the South Pacific, and Southeast Asia.

In fact, once a year, the female sea turtle leaves the ocean. She climbs up onto a beach. She can't walk like a land turtle. She pushes herself through the ＊sand. When she is on dry sand, she lays her eggs – about 100 to 150 of them. Then she pushes herself back down to the water. [ ② ]

[ ③ ] Birds and other animals are waiting to catch them. The little turtles run down directly toward the ocean. They dive into the water, and they swim fast. In deep water, they will be safer.

[ ④ ] Many others die in their first year. That is why female turtles lay lots of eggs. A few turtles always survive. Adult sea turtles have few natural enemies. Only large sharks try to eat them. Sea turtles can live for a very long time – up to 80 years.

注) the Caribbean カリブ海　　sand 砂

(ア) Can you imagine a hundred baby turtles running on a beach?

(イ) Many turtles do not survive this race to safety.

(ウ) The eggs remain in the warm sand for about two months.

(エ) When the baby sea turtles are born, they have to run for their lives.

B 次の英文を読んで、設問(問1・問2)に答えなさい。＊印は注があることを表します。

Your eyes don't lie. Many people try to hide their feelings. Maybe you have to talk to someone you don't like and you don't want that person to know how you feel. You might ＊pretend to be nice to him or her. You may think you can easily fool people this way. But if they look into your eyes they may just be able to tell how you really feel. For years people have believed in the power of the eyes. Now, ＊experts have shown that it is right. They've found that a person's ＊pupils will change sizes depending on his or her feelings. Pupils are the black dots in the center of the eyes. Your pupils will grow larger when you look at someone you like. If you have to look at someone that you don't like, your pupils will become _____.

注) pretend 装う、ふりをする　　expert 専門家　　pupil ひとみ、瞳孔

問1 文章の最後にくる語としてふさわしいものを(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

(ア) wider　(イ) smaller　(ウ) heavier　(エ) lighter

問2 本文の内容にふさわしくないものを(ア)～(エ)から1つ選び、記号で答えなさい。

(ア) Your feelings can be read from your eyes.

(イ) Experts have not found the relationship between eyes and feelings.

(ウ) Your pupils will change sizes depending on how you feel about the person you are looking at.

(エ) You cannot easily fool people with your eyes.

C　下の①～④の文を意味が通るように並べかえて、文中の〔　　〕に当てはめなさい。＊印は注があることを表します。

Dogs can be trained to answer to ＊commands. They learn to ＊recognize people. They can tell the difference between ＊musical tones. But one thing dogs can't do is to recognize colors. Recently, experts did a test to show that dogs are color-blind. 〔　　〕 They watched to see ＊if the dog learned that the card meant it was about to be fed. It didn't. Dogs ＊salivate when they want food, but the dog that was shown the card never did. Yet when the same dog heard three musical tones, it quickly learned which tone was a sign of food.

注）command 命令　recognize 識別する　musical tone 音色
if ～ ～かどうか　salivate よだれを垂らす

① Each card was a different color.

② Again and again, the experts gave the dog food after it saw the one special card.

③ They showed a dog three cards.

④ The dog was fed each time it had been shown a card of a certain color.

5　次の英文を読んで、後の設問(問１～５)に答えなさい。＊印は注があることを表します。

When I said good-bye to my best friend, ＊(1)Opal, we promised to write and to see each other again. At fourteen, our futures seemed full of possibilities though our separation was coming. It was June 1957, and we had spent two and a half of the happiest years of our lives on ＊(2)Chitose Air Force base in Japan. Now her family was moving to England, mine to ＊(3)Florida. What hurt most about leaving each other was that she was not only my first, but my best, best friend.

Growing up with a father in the ＊(4)military meant moving often. The two-room schoolhouse on the northern island of Hokkaido was my ninth school — and I was only in the sixth grade when I arrived. Opal's childhood was similar to mine, but I was terribly, painfully shy. I didn't like to be "the new girl." Once or twice I tried to make a friend, but before we could get to know each other well, I had to move on to a different school.

Then one January day in 1955, I stood in the front door of my newest classroom. As always, my stomach hurt with worrying and I was trembling, so I wanted to get out of there. Twenty kids silently stared at me, and I turned red from my ears down to my feet. I tried to keep my eyes on the floor, —only seeing the strange faces with a quick look. Then I saw a girl turning her eyes toward me, her smile felt like warm sunshine. She actually seemed to welcome me! When the teacher told me to take the desk next to Opal's, some of my frozen terror began to melt slowly.

"Hi, I'm Opal." Her voice made me remember the Midwest sounds; her face was round, her eyes were soft behind her thick glasses, her hair was long and brown. And as I quickly learned, her heart was made of gold.

That first day, as we moved from history to math to English, she helped me find the right places in the books and filled me in on the other kids. By the end of that first day, an unspoken promise had been made. Opal and I knew we would be best friends.

During the next months, more and more new kids moved to the base and Opal welcomed everyone — teaching me by example to do the same. Even in the large group, Opal and I were the perfect best friends. She was tall, I was short; she was good in math, I loved reading; she wasn't good at doing sports,

but cheerfully joined the games and sports I took her into. Her father was a *(5)master sergeant (the fire chief!), mine a *(6)lieutenant colonel. She admired my activeness; I admired her gentleness with young children. We were different and that was good for both of us.

Two years flew by — *(7)miracle years filled with fun and growth and discovery. Then I heard a *(8)rumor. *(9)The Air Force was closing the base, and we would all be moved back to the States that summer, headed for different jobs, hundreds or thousands of miles away.

As promised, Opal and I wrote many letters (we couldn't use phone calls because it cost too much money) until we were sixteen. I was in *(10)boarding school when her last letter came. She'd fallen in love with an older man — nineteen — an airman first class. She'd left her family in England and returned to the States to marry him. She had just given birth to a beautiful baby girl.

I wrote back right away but didn't get an answer. Though I knew she was too busy to write, I wrote again and again. Finally my letters were returned: address unknown. How I worried about her! To be married and have a baby at sixteen! I knew her so well: I knew she'd be a wonderful mother, but I also knew she was too young to be married.

I graduated from boarding school and then college, was married, had three babies, *(11)divorced, remarried. My children grew up, went to college, and my daughter was now a mother. And so often I thought of Opal, wondering where she was, if she was all right, if she was happy. I'd talk about our happy years together, and my family knew all about my best friend.

One hot August day in 1991 the telephone rang.

"Is this Louise?"

"Yes."

"Is this Louise Ladd?"

"Yes."

"Is this Louise Ladd from Japan?"

"Who are you?" I shouted.

"This is Opal."

I cried out. I was outside on the front door and everybody in town must have heard me. Dancing around and jumping up and down, I shouted out for joy.

Thirty-four years after we said good-bye, she had found me. Cleaning up everything after a recent move, she had opened an ancient box marked "papers." My letters from 1959 were in it. Soon she called everyone named Ladd who lived anywhere near my old address in *(12)Maryland; then, refusing to give up, she called my boarding school. After much begging and asking, the *(13)alumnae office in the school finally gave her my phone number.

That Christmas, Opal and her second husband drove from *(14)Omaha, Nebraska, to spend a few days with us in *(15)Connecticut. She looked the same. She sounded quite the same. She was giving the same warmth and love I'd always known. She'd missed me as much as I'd missed her. She'd been through difficult times, but as always, had tried to find the good in life. The best time of our lives do not lose its bright color. It has lasted and it will last.

And now we are together again: best friends, forever.

注)

(1)Opal オーパル(人物名)

(2)Chitose Air Force base 現千歳空港にあったアメリカの空軍基地

(3)Florida フロリダ州　(4)military 軍隊

(5)master sergeant 曹長　(6)lieutenant colonel 中佐

(7)miracle 奇跡の　(8)rumor うわさ

(9)The Air Force 空軍　(10)boarding school 全寮制の学校

(11)divorce 離婚する　(12)Maryland メリーランド州

(13)alumnae office 同窓会

(14)Omaha, Nebraska ネブラスカ州オマハ(町の名)

(15)Connecticut コネチカット州

問１　次の表は本文の内容を時間順に配列したものです。（１）～（４）に当てはまる英文を、下の（ア）～（エ）から１つずつ選び、記号で書きなさい。

| 年 | 出来事 |
|---|---|
| 1955 | （１） |
| 1957 | （２） |
| 1957—1959 | Louise wrote many letters to Opal and she received Opal's letter. |
| 1959 | （３） |
| 1991 | （４） |

（ア）Air Force closed the base, so Louise and Opal had to separate then.

（イ）Louise didn't know where Opal was because she didn't have any letters from Opal.

（ウ）Louise met Opal for the first time in Hokkaido.

（エ）Louise got a call from Opal and Louise met Opal again after thirty-four years.

問２　次の質問（１～３）に対する答えとしてふさわしいものを（ア）～（エ）から１つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. What made Louise and Opal best friends?

（ア）Only Opal's way of action made them close.

（イ）Opal's voice was the Midwest sounds, so Louise felt nervous.

（ウ）Their childhood was quite the same but they were different types of girls.

（エ）Their school was a small size, so there weren't many students.

2. What made Opal remember Louise?

（ア）Opal called many people named Ladd.

（イ）Opal found the old box, which Louise's letters were in.

（ウ）Opal knew Louise's address.

（エ）Opal visited Louise's school.

3. How did Opal find Louise?

（ア）Louise found Opal's phone number in the letter.

（イ）Opal phoned Louise's school and got Louise's phone number.

（ウ）Louise asked the Air Force and got Opal's address.

（エ）Opal went to Louise's school and found her address.

問３　本文の内容と合っているものを、（ア）～（エ）から１つ選び、記号で答えなさい。

（ア）One day, Louise met Opal at the school in the Air Force base, and by the end of that day Louise felt Opal would be her best friend.

（イ）After leaving Hokkaido, Opal soon fell in love with a 19-year old airman, then she moved back to the States but never married him.

（ウ）After graduating from college, Louise got married and had three children, but she didn't tell her children about Opal.

（エ）Opal and her husband drove their car to meet Louise on Christmas and they returned home on that day.

問４　次の英文（１・２）に続くものとしてふさわしいものを、下の（ア）～（エ）からそれぞれ２つずつ選び、記号で答えなさい。

1. Louise was glad because (　　).
2. Louise was worrying because (　　).

（ア）she got a call from Opal at last

（イ）she didn't know where Opal was

（ウ）Opal wasn't old enough to have a baby

（エ）Opal was friendly and warm

問５　本文の主題として最もふさわしいものを（ア）～（エ）から１つ選び、記号で答えなさい。

（ア）Best friends have similar experiences.

（イ）Different characters will make people closer.

（ウ）Good memories can always support a person.

（エ）True friendship will last forever.

# 平成 26 年度　一般入試

# 英語　解答用紙

〈注〉※欄には記入しないこと。

## 1

問 1　1 ＿＿＿＿　2 ＿＿＿＿　3 ＿＿＿＿

問 2 ＿＿＿＿　＿＿＿＿　＿＿＿＿

※

## 2

1 ＿＿＿＿　2 ＿＿＿＿　3 ＿＿＿＿　4 ＿＿＿＿

5 ＿＿＿＿　6 ＿＿＿＿　7 ＿＿＿＿　8 ＿＿＿＿

9 ＿＿＿＿　10 ＿＿＿＿

※

## 3

1 We ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

2 He is a ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ in this town.

3 Why don't we go to the library ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ summer vacation?

4 The ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ expensive.

※

## 4

A ①＿＿＿＿　②＿＿＿＿　③＿＿＿＿　④＿＿＿＿

B 問 1 ＿＿＿＿　問 2 ＿＿＿＿

C ＿＿＿＿ → ＿＿＿＿ → ＿＿＿＿ → ＿＿＿＿

※

## 5

問 1 （1）＿＿＿＿　（2）＿＿＿＿　（3）＿＿＿＿　（4）＿＿＿＿

問 2　1 ＿＿＿＿　2 ＿＿＿＿　3 ＿＿＿＿　問 3 ＿＿＿＿

問 4　1 ＿＿＿＿ / ＿＿＿＿　2 ＿＿＿＿ / ＿＿＿＿　問 5 ＿＿＿＿

※

| 受験番号 | 氏　　名 |
|---|---|
| | |

※